

めい じ
明治

たい しょう
大正

しょう わ ぜん き
昭和前期

しょう わ こう き
昭和後期



はがま

ごはんをたくための道具。米と水を入れて、かまどにかける。
かまどの火がむだなくあたるように、そこが丸くなっている。

めい じ
明治

たい しょう
大正

しょう わ ぜん き
昭和前期

しょう わ こう き
昭和後期



めしびつ

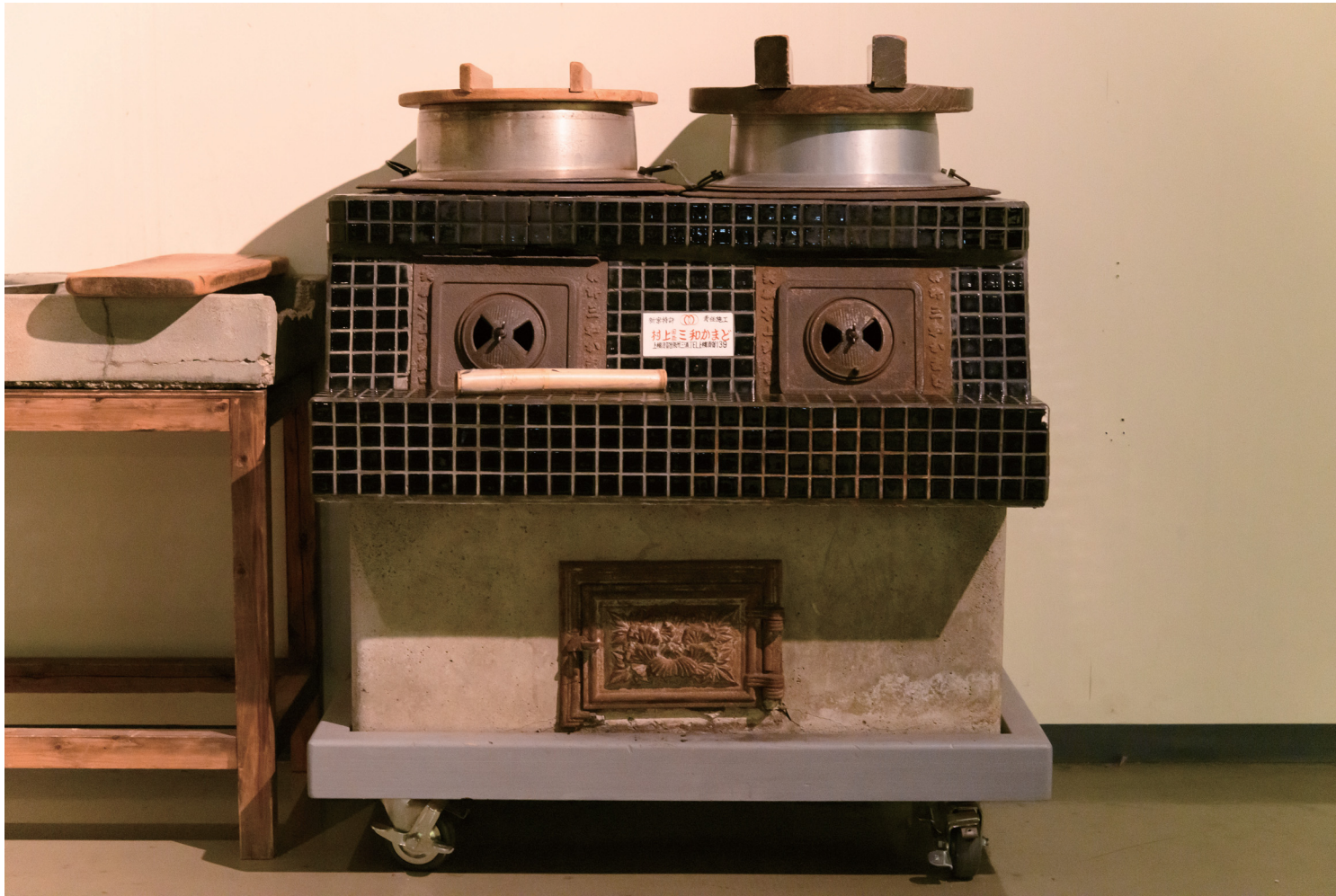
できあがったごはんをいれておく。木^きでできている。木^きはごはんの水分^{すいぶん}をすってくれるので、ごはんをおいしくほぞんできる。

めい じ
明 治

たい しょう
大 正

しょう わ ぜん き
昭 和 前 期

しょう わ こう き
昭 和 後 期



かまど

うえ
上に、はがまやなべをおき、^{した}下で木を^きもやして、^ひにたり、^{つよ}たいたりする。かまどの火の強さは、
もやす木^きの^{おお}大きさや^{かず}数で^{つか}かわる。かまどを使うには、^ひ火の^みようすを見ていなくてはならなかった。

しょうわ こうき
昭和後期

へい せい
平成



でん き 電気すいはんき

でん き
電気でごはんをたくことができる。こめ みず
米と水をすいはんきに入れて、スイッチをおすとごはんがたけた。
スイッチ一つでできるため、ごはんをたくてま
手間がへった。

しょうわ こうき
昭和後期

へい せい
平成



でんし ジャー・電子ジャー

すいはんきで、たきあがったごはんを入れておく。ジャーは、まほうびんで、でんし
でんき ちから なか はい あたた
電気^{でんき}の力で、中^{なか}に入っているごはんをずっと温^{あたた}かくたもつ。



いま：すいはんジャー

ごはんを自動でたくことができ、そのまま温か^{あたた}くたもつことができる。いま、おもに使^{つか}われている。
ごはんをたくことがとてもかんたんになった。